Las Vegas Japanese Community Church　February 2009

『わたしは荒野に道を設け、さばくに川を流れさせる』（イザヤ 43:19）

Desert Wind

(No.27 2月号)

LVJCC 牧師:鶴田健次

『あなたの夢はどれくらい大きいか』

（ヨシュア14章）

聖書の中に、85歳にして新しいチャレンジに生きた人の話がでてきます。 その人の名はカレブ。 イスラエルの指導者ヨシュアの古くからの信仰の友です。 40年の荒野の旅を終え、ヨシュアとカレブとイスラエルの新しい世代は、神の導きによってカナンの地に入りますが、そこには巨大なカナン人が住んでいました。 しかし、ヨシュア率いるイスラエルの民はカナン人と戦い、勝利に勝利を重ねながら、カナンの土地を手に入れていきます。 そして、戦い始めて5年後の事情がヨシュア記14章に記されているわけですが、イスラエルはカナンの地の多くを既に手に入れてはいたものの、まだ征服できない土地が残っていました。 その中でも、ヘブロンの山地はアナキ人という強い民族が住んでいて、イスラエルの定着をはばんでいました。

そのとき、85歳になるカレブがヨシュアのもとに来て、「どうぞ私にあのアナキ人たちと戦わせて、あのヘブロンの地を征服させて下さい」と願い出たのです。 ヨシュアはカレブを祝福して送り出し、カレブの率いるユダ部族は見事アナキ人を倒してヘブロンを征服することができました。 私たちは、このカレブの姿を通して、夢についての教訓を学ぶことができます。

まず第一の教訓は、私たちは幾つになっても夢を見ることができるということです。 普通、85歳といえば、隠居生活をしている歳です。 元気な人は、85歳でも、一人で生活していらっしゃる方もおられますが、85歳で何か新しい事にチャレンジするという人は極めて稀です。 85歳のカレブは、「私の今の力は、あの時の力（45年前）に劣らず、どんな働きにも、戦いにも堪えることが出来ます」と言いました。 しかし、そうは言っても85歳ですから、たとえ気力はあっても、肉体は45年前と同じというわけにはいきません。 しかし、彼の言葉は年寄りの強がりだったのではありません。 彼は、「主が私とともにいてくだされば、私は彼らを追い払うことができる」と言いました。 つまり彼は、神が共におられるから何でも出来ると言ったわけです。 天地を造られた全能の神が共におられるなら、自分が年老いていることは問題にならないと考えていたのです。 『1＋無限大』も『1万＋無限大』もその答えは同じであるように、無限大の力を持たれた神が共におられるなら、1の力でも、1万の力でも、結果は同じだということです。 これが神を信じる者の態度であり力です。 その意味において、カレブは私たちに、「あなたは幾つになっても夢を見ることが出来る」ということを教えてくれます。

次に第二の教訓は、夢は黙っていては実現できないということです。 カレブは85歳になっても、「わたしの今の力は、あの時の力に劣らず、どんな働きにも、戦いにも堪えることができます」と言いました。 あなたも85歳になった時、こんな事を言える者になりたいと思いませんか。 ここでの重要なポイントは、たとえその土地が神から与えられた約束の土地であっても、その土地を手に入れる方法は、戦いによって勝ち取る以外にないということです。 つまり『祝福は既に与えられている。だから、信仰によってそれを獲得せよ』というのが聖書的人生観です。 恵みと努力は車の両輪です。 どちらがなくても進むことはできません。 神はあなたのために既に祝福を用意しておられますが、あなたに求められることは、立ち上がってそれを取りに行くことです。

最後に第三の教訓は、神の御心に従うなら、神が夢の実現を助けて下さるということです。 カレブは、神が共におられたので、アナキ人を追い出すことができました。 つまり、カレブとユダ部族の兵隊は、アナキ人を追い出すために神の手足となって働きはしましたが、実際にアナキ人を追い出したのは神の力です。 ここに教訓があります。 つまり、私たちが、自分の力でアナキ人ならぬ様々な障害を追い払うのではなく、それをされるのは神であるということです。 あなたもカレブにならい、大きな夢に向かって神と共に歩んでみませんか？

DREAMS COME TRUE

- 教会堂の建設
- 敬老ホームの設立
- 幼稚園の設立

お祈りのリクエスト

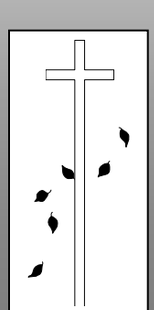
- 聖書通読マラソンのために
- 倉田一徳さんの脳腫瘍の癒しのために
- Youth Ministry のため
- 神山かおり姉の癒し
- 新井雅之兄の脳内出血の後遺症のリハビリと癌治療のため、また総ての必要が満たされるように、続けてお祈り下さい
- 日本の家族の救いのために
- 英語部の働きのために
- 小さな子供を持つお母さん方のクラスのために（香織姉担当）
- 入門者クラスのために（まなみ姉・奏兄）
- 病の方の癒しのために

Desert Wind では1400 字程度のお証、また質問を募集しています。 ご意見・質問等何でもどうぞ。

lvjccnews@hotmail.com
編集:真子ガーディナー
松岡みどり

編集部から

昨年 10 月から始まった教会ブログに続き、待望のウェブサイトが立ち上がりました。当教会の紹介から、キリスト教の教理、有識者の聖書観、創造か進化か、また過去のデザートウンドもご覧いただけます。非常に中身が濃く、しかも分かりやすく書かれておりますので伝導ツールとして欠かせないものとなるはずです。どうぞ遠隔地にいる家族や友人などにご紹介下さい。



証し: 由季マイヤー

◆ 聖霊の働きに感動した瞬間 ◆

私は、昨年の感謝祭礼拝で、洗礼を受ける事ができました。ちょうどラスベガス教会に行き始めて一年になった時です。その4ヶ月前にカルフォルニアから引越しをして来ました。引越しをしてきた当初は、直ぐ日本人の友達が、出来ると思っていました。最初の1、2ヶ月間は、引越し荷物の片付けなどで家の中にいる事も多く、また慣れない場所での運転もあり、余り外出もしませんでした。日本の母やカルフォルニアの友達からも「頑張っているね。そのうち知り合いも出来るからきっと大丈夫よ。」と励まされていました。その後だんだん運転にも慣れ買い物をするお店も増えて行きました。ジムにも通うようになりました。しかし日本人の知り合いは、依然出来ませんでした。3、4ヶ月が過ぎ、母からもカルフォルニアの友達からも今までの「大丈夫」に？がつきはじめ、誰も知り合いが出来ない事を心配し始めました。その時に以前通っていた教会の方から紹介を頂いていた鶴田先生にお電話を致しました。「お電話お待ちしていました。今度お好み焼き会がありますから是非いらしてください。」とお誘いを頂きました。そしてその時に4ヶ月ぶりに日本人の方たちにお会いする機会に恵まれました。おいしいお好み焼きと楽しい会話でとても心が温かくなりました。それから日曜日の礼拝に行きはじめました。

初めて教会に行くようになり聖書に出会ったきっかけは、主人の仕事でアメリカに来た10年前になります。その後、出産・子育てなどで聖書を開く事は礼拝に行った時だけでした。また時々あったバイブルスタディーも、みんなで会っておしゃべりをしたりポトラックでおいしいご馳走を食べたりする事が中心になり、お勉強はその口実の様になっていました。その為聖書の御言葉を深く考える事はありませんでした。 聖書は、ただ本の一冊としか考えていませんでした。その後私の考えの中に変化が現れる事件が起きました。主人の会社の業績不振からの突然の解雇による失業でした。今では毎日のようにニュースで放映され、聞きなれた言葉になっていますが、当時の私には聞きなれず、私が日本で仕事をしていた頃は、半永久雇用で退職まで働く事の出来る会社が多くありました。ましてや当日解雇のような事が起こるとは考えてもいませんでした。その時に自分の無力さを痛感しました。まだ子供も小さく、自分が働きに行くことも考えられず、毎日が不安で、ただただ早く主人に仕事が見つかる事を願っていました。その時にも礼拝には行っていました。自分が困って悩んでいる時に教会の方々からも励まされ、また聖書での御言葉の中にも心に残る物がありました。その時から教会や聖書に対して、以前より関心を持つ様になりました。

ラスベガス教会の礼拝での鶴田先生のメッセージは、毎回心に響く物でした。時には将来の目標になり、時には自分に対して置き換えた時の叱咤激励の様に感じていました。また礼拝後の教会の方々との交わりは、私の楽しみになりました。そのうち聖書の入門クラスがある事を知りました。今まで聖書を持っていたり、礼拝も出てはいましたが、クリスチャンの本当の意味やイエスキリストの存在の意味をもっと知りたくなりました。入門クラスでは、先生からマンツーマンで聖書の歴史、罪の存在、十字架の意味など基礎から丁寧に講義をして頂きました。だんだん回を重ねるうちに、今まで以上に日曜礼拝でのメッセージを身近な事に感じる様になりました。講義も中盤になり、お祈りのお話しを伺っている時に先生が、「ユキさんの事をいつも皆さんが、祈っていますよ。」とおっしゃったのです。その時突然、無意識のうちに涙がこぼれて来ました。私の意識しない所で、心が感動したのです。今まで感じる事のなかった聖霊の働きを実感した瞬間でした。感謝の気持ちでいっぱいになりました。その後も神様の偉大なる愛を知り、また祈りの大切さを知りました。それからは、今まで自分の中に漠然と存在していた神様の存在が、イエスキリストであるという確かな存在に変化し、イエスキリストを自分の神様として心に受け入れる気持ちへと確実に変化をして行きました。

入門クラスの最後に、信仰告白の言葉がありました。その言葉を心から声を出して言える事に喜びを感じました。その日に、これまで歩んで来たことは偉大なる神様のご計画であり、偶然と思っていた事は必然であり、神様からの導きがあった事を感じました。教会に対しても沢山の方の献身的な姿を見て、奉仕の大切さを学びました。これからは、いつも神様を信頼し、常に神様と共に歩む事ができる様に心掛けて行きたいと思っています。神様に感謝致します。